

論語教室だより

『寺子屋・こども論語塾』世話人会

第 68 号

2016 (平成28) 年11月19日 (土)

こ 子 が 親 に 求 め る も の

寺子屋・こども論語塾 主宰 新田 修

「親が子に自立を求める前に、親自身が自立していなければならない」

元名寄女子短大教授の川上信夫氏がある講演で強調した言葉である。講演の中で川上氏は、「まず子供
の自立が出来ないと親子の間で断絶が起こる。普通の家庭では中・高生ぐらいになると、親の注意に対し、
『うるさい』と口答えするが、これは自立ではない。自立とは自分の意見を貫くと同時に、相手の考えも
受け入れなければならないからだ」と話していた録音テープを聞きながら考えさせられた。近年、自立し
ている子供は少なくなってきた。

では何故自立できないのか。

色々な見方もあるだろうが、スマホに象徴されるように、小さい時、体を動かして思う存分遊ばず、
友達との交わりの中で生じる喧嘩や仲直りなどの機会が奪われているからではなかろうか。同時に、受験
勉強、テレビなどの影響で一人ひとりが、自分の世界に閉じこもることが多くなり、他人のことを考え
るゆとりが乏しくなったのも大きな要因のように思われる。

先日テレビ番組である学者が、「最近では自立できないで悩んでいる子供に甘える母親が出てきた」と。ま
た、「女性の社会進出はそれ自体結構なことだが、忙しさにかまけて朝ご飯を作らず、パンを買いなさい
と現金を渡す“手抜き”育児が広がってきた」と言い、「そういう甘えは逆に放任につながる」と嘆いてい
るのを聞いて驚いた。

では親子ともども、自立するにはどうしたらよいのであろうか。

講演で川上氏は、息子さんの「停学」、娘さんの友人関係の危機の解決までの道筋をたどりながら話して
いる。

「まず親子が共に真剣に悩み抜くこと。そして親自身がそれだけほどこに出しても恥ずかしくない一番確
かなものを、子供に誠実にぶつけること。その時、命をかけるぐらいの気迫がほしい。親が子に自立を求め
る前に、親自身が自立していなければならない。こういう機会は何度かあるが、親は絶対逃げないで下さい」
と結んでいる。

体験談ゆえに考えさせられる重い言葉である。

子が親に期待しているもの。それは、自身の自立に努力する親の姿ではなかろうか。

お知らせ

来月(12月17日)の「寺子屋・こども論語塾」は、開塾して丸6年を迎えます。年月の経つのは何と早い
ことでしょう。そこでこれを記念し、旭川大学の佐野公平先生をお招きして、ご高話を拝聴することにし
ました。先生は中国笑話と日本の古典落語に関する比較研究をされています。また、塾長出版の「日に
日に新たに亦楽しからずや」の監修者でもあります。

当日は、「中国笑話の世界」に登場人物、論語、落語、笑いの本質の4視点から触れて約30分間ユーモ
ア交えて話して下さいます。どうぞお楽しみに！